

## 子どもの潜在能力を測る

宝島社は、遺伝子検査キットがついたムック本「潜在能力がわかる！遺伝子検査（価格は1600円）」を発売しています。

検査は、「学習」「EQ（心の知能指数）」「音楽」「絵画」「運動」の5分野15項目について、潜在能力を「優秀、良好、一般、不利」の4段階で判定され、社交性や執着力、記憶力といったようにセンスや性格などの細かい分析が行われるとのこと。

料金は1項目1050円又は2100円ということですから、比較的リーズナブルであり、結果も2ヵ月で届くということで、既にかんりの利用者がいるようです。

宝島社では、「優秀なスポーツ選手、芸術家、科学者は、各々がその才能を裏付ける特別な遺伝子を持っているとするのは、もはや常識」とし、遺伝子で人の才能はどこまでわかるのか？ 天才を育てるためにどう活用すればいいのか？ 「遺伝子」をめぐる最新事情をわかりやすい言葉で解説するとしています。

私は、キットを購入しておりませんので具体的な中身は分かりませんが、遺伝子検査もここまで身近なものになったのかという驚きが先に立ちます。

確かに、足が速いとか、絵が上手とか、持って生まれたものの違いを感じる場合があります。私は走るのが遅くて、小学校の運動会では、どんなに努力しても1等にはなれませんでした。そんな私が、いくら特訓を受けたからといって、走る才能が開花するとは思えません。そう考えると、盲目のピアニスト辻井伸行さんの例を待つまでもなく、子どもの特性や才能をいち早く見つけ、その才能を伸ばすために適切な指導をしていくことの重要性は良く分かりますし、遺伝子検査に対する関心が高まることも理解は出来ます。

とはいえ、慶応大学の安藤教授（行動遺伝学）がおっしゃるように、「2万以上ある中の一つの遺伝子の働きは、いわばオーケストラの中の一人の演奏。一つで説明出来るのは能力の一部に過ぎない」のですから、遺伝子検査によって子どもの潜在能力が分かったような気になることは避けるべきでしょう。

一人の人間が持っている力は多様であり、複合的なものです。また、興味や関心も成長過程の中で大きく変化していきます。とすれば、最先端の遺伝子検査といえども、それだけで、子どもたちが秘めている才能や伸びようとする力を推し測ることは、無理があると考えます。むしろ大切なことは、日々子ども達たちと多くの時間を共にしている親や教師など、周りの大人達の目であり感性ではないでしょうか。

子どもたちの内発する力に如何に気づき、必要な手を差し延べることができるか、大人達の力が試されています。（塾頭 吉田 洋一）